

研究推進だより NO. 1

令和2年 9月 18日
大田区立出雲小学校
校長 関 眞理子
研究主任 岩崎 光子

令和2年度校内研究主題 未来を創る力の育成 ～「未来ものづくり」を通して～

本校では、児童が創造的な見方・考え方を働かせ、ものづくりに取り組むことを通して、よりよい未来社会を創るための創造的に考える資質・能力を育成することを目指して、校内研究を行っています。

【 出雲小の目指す児童像 】

- 「ものづくり」に熱中できる子（試行錯誤）
- 納得解を見付けることができる子（よりよい社会）
- ONE TEAMで取り組むことができる子（協働、表現・発信）

「未来を創る力」の育成の基盤となるものは、「論理的・科学的な思考力の育成」と「家庭学習・家庭教育（言語感覚の涵養）」と考えています。そこで、論理的思考力の基盤となる言語について、言語技術教育研究所、三森ゆりか先生をお迎えして、教員の指導力向上に向けた模範授業を行っていただきました。

模範授業 3年2組にて 「クリティカルシンキング」（絵の分析）

三森ゆりか先生が、言語技術力を高めるための指導

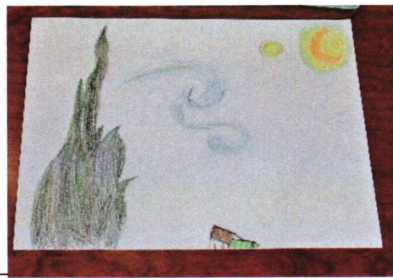
法の一つ「クリティカルシンキング」を用いて、授業を行いました。



まず、児童に、絵についてじっくりと観察させた後、家や木、空の様子や時間について質問します。

「何時ころだろう？」「空の様子は？」「木の様子は？」などです。様々な視点から絵を見ることで、これまで見えてこなかったものが見えてきます。

子供たちは「夜明け近く。」「星が光っている。」「ゆれて見える。」などと答えます。次に、どうしてそう考えるのかその証拠を説明させます。時間について「夜明け近く。」と答えた児童に、そう考えた理由を問うと、絵を指し示して「この山際のところが、明るい色だから、もうすぐ太陽が昇ってくるところだと思います。」と答えていました。



また、証拠を一人ひとりが絵に描いて表す必要があるため、普段より集中して細かい部分にまで注目して絵を観察していました。運動ができるようになるために技術が必要なように、文章を読むにも作文を書くにも議論したり、プレゼンテーションしたりするにも技術が必要です。国語科を基礎とし、全教育活動での言語技術が考える力を伸ばす基になっています。

今回の授業では、論理的に思考するため絵を題材に、たくさん考えたことを絵や言葉で根拠をもとに子供たちが集中して学習をすすめていました。日々の授業の中で、絵や図表、文章等を分析的に読む時間をつくり、絵や文章を詳しく正確に読む力や議論力、情報を鵜呑みにせず検討する力、言葉で伝える力を高めていきます。私たち教員も、さっそく日々の指導に少しずつ取り入れていこうと考えました。